

## 奈良県

蛍が見れた川

山添村立山添中学校 三年

増田 晏奈

私は幼い頃から、川沿いで蛍を見るのが好きでした。車内の後部座席から窓ガラス越しに見える数多の蛍が、ものすごく神秘的で綺麗で、まだ幼かった頃の私にはその景色は深く心に残りました。ですが、数年経った今、川沿いへ蛍を見に行っても、光っているのは街灯だけで、蛍は一匹もいませんでした。あの景色が大好きだったので、私はとても悲しかったです。私は、なぜ蛍がいなくなってしまったのか不思議に思い、調べてみることにしました。

川の水が汚す原因は、自然に汚れてしまう「自然系」の汚濁と、人間が汚してしまう「人為的」の大きく二つに分類されます。一つ目の「自然系」というのは、枯葉や枯草、動物や昆虫の死骸といった、野生の動植物が生きているうちに川が汚れてしまうものです。しかしこの「自然系」の汚れは川の水を汚す大きな原因ではありません。二つ目の「人為的」な汚濁というのは、私たち人間が生活していく上で川を汚してしまうものです。この「人為的」の汚濁で川の水の汚れは9割以上を占めており、川の水を汚す原因のほとんどが私たちの生活によるものです。ここ数年でのアウトドアブームで、川原でキャンプやバーベキューが人気になり、水質悪化のために蛍の発生数は減少しました。また蛍は異常気象によっても減少してしまいます。台風等の大雨で蛍の幼虫が流されてしまうことは昔からありました。台風の大規模化やヒートアイランド現象による集中豪雨は、夏期において頻繁に発生し、多くの蛍幼虫に回復の見込みがない程の被害をもたらします。環境省の第二回自然環境保全基礎調査報告書（一九八二年）によると、宅地開発・ゴルフ場開発が行われると、蛍の生息環境は全て奪われてしまいます。

それだけではなく、東京の里山の近くには、ざっくりと山を削って造られた巨大なゴミ捨て場があります。また大規模な開発だけでなく生息環境の一部だけ、例えば河川改修も、蛍にとっては重要な生息環境を奪われてしまうことにもなります。

私はもう一度あの綺麗な蛍の景色を見たいと思い、川の水を綺麗にする取り組みを調べてみました。調べてみると、油污れなどは紙で拭いてから洗ったり、みそ汁や麺類のつゆの残りなどを流さない、シャンプーや洗剤などを使いすぎない、三角コーナーやろ紙などで食品くずが流れないようにする、ゴミは絶対に川に捨てないなど、意外にも私にもできる些細なことでも川が綺麗になることが分かりました。こんな些細なことでも、意識して何年も繰り返して行っていくと、少しでも川は綺麗になると思います。

「日本の水は綺麗」私の中での日本の水の印象はこうでした。ですが、それはインフラが整っているだけという意味で、飲み水は綺麗だけれど、海や川は意外にも汚れていることが分かり、それが原因で蛍の発生数が減っていると気づきました。今回、海や川の水が汚れている理由を調べてみて、私はこれからもどんどん日本の水は汚くなっていくんだらうなと思いました。水がどんどん汚くなっている理由には人間が生きていくに欠かせないことで水が汚れていっているからです。なので私は、少しでも身近にある川が綺麗になるために、地道に川を綺麗にしていく取り組みをしていこうと思えるきっかけになりました。もう一度、あの蛍の景色を見るためにも頑張りたいと思いました。